

地域猫活動セミナーアンケート調査結果

1. 調査対象

平成 29 年度愛媛県地域猫活動セミナー参加者

○中予会場：平成 29 年 12 月 3 日 愛媛県美術館 24 名

○東予会場：平成 30 年 1 月 20 日 愛媛県総合科学博物館 27 名

○南予会場：平成 30 年 2 月 10 日 愛媛県歴史文化博物館 30 名

計 81 名

2. 調査方法

・セミナー会場におけるアンケート用紙（無記名）の配布・回収

3. 回収件数

○中予会場：16 件（回収率 67%）

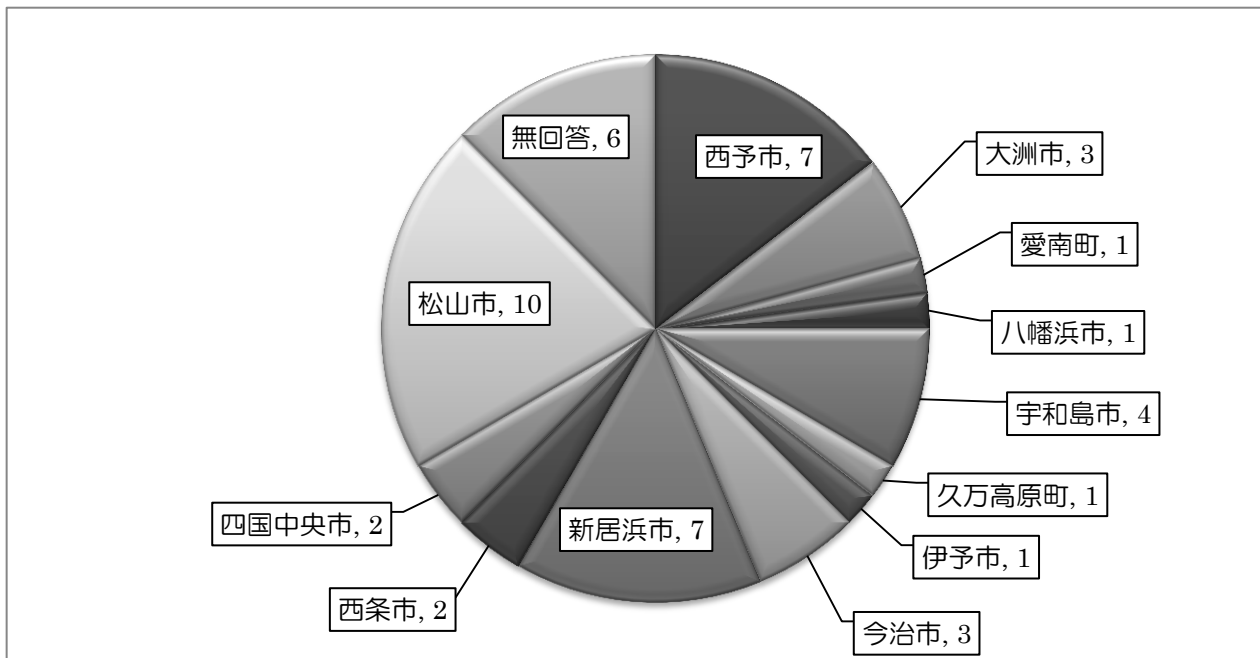
○東予会場：16 件（ " 59%）

○南予会場：16 件（ " 53%）

計 48 件（回収率 59%）

4. 調査結果

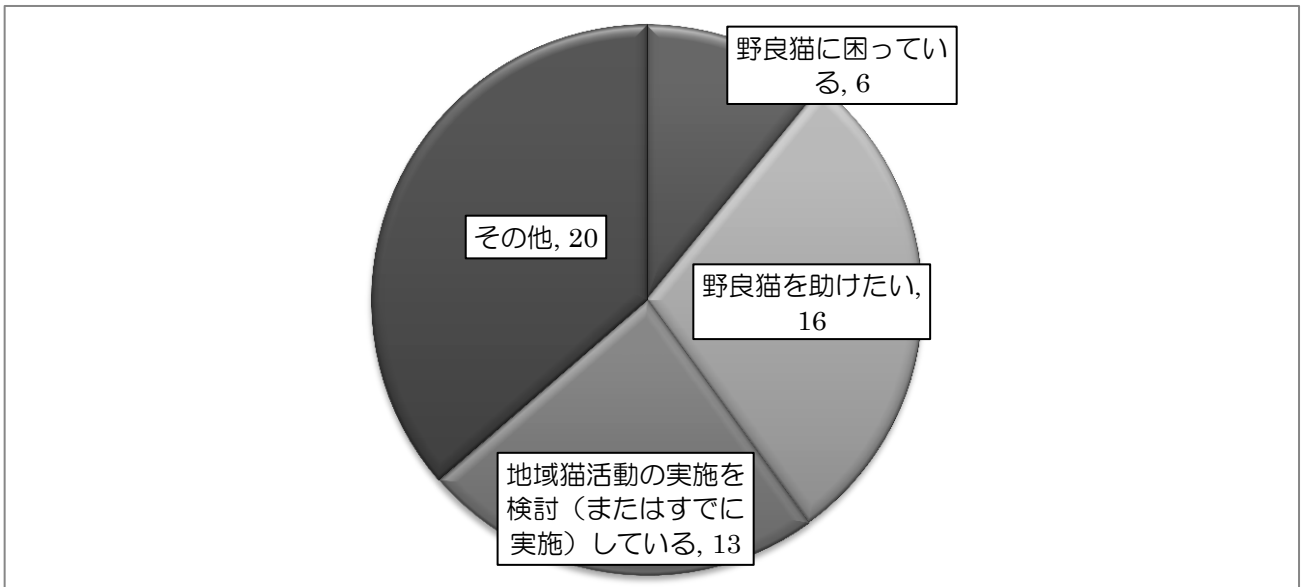
Q 1 お住まいの市町はどちらですか。



【考察】

会場となった市を中心に、幅広い地域の方の参加があった。

Q2 地域猫活動セミナーに参加された理由は何ですか。(複数回答可)



地域猫(活動)とは【環境省「住宅密集地における犬猫の適正飼養ガイドライン」より】

地域の理解と協力を得て、地域住民の認知と合意が得られている、特定の飼い主のいない猫。

その地域にあった方法で、飼育管理者を明確にし、飼育する対象の猫を把握するとともに、フードや糞尿の管理、不妊去勢手術の徹底、周辺美化などの地域のルールに基づいて適切に飼育管理し、これ以上数を増やさず、一代限りの生を全うさせる猫を指します。

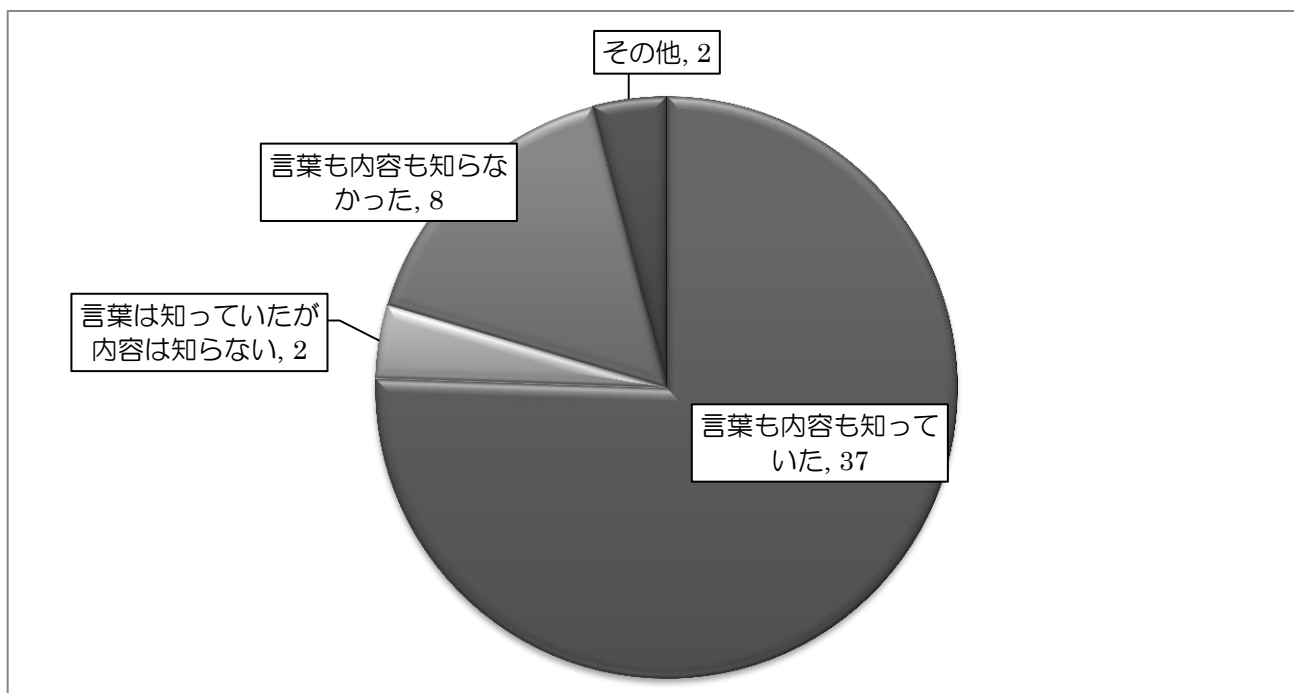
- 「野良猫に困っている」の主な内容
 - ・糞尿
 - ・敷地内への侵入
 - ・無責任に猫へ餌をやる人がいる
- 「その他」の主な内容
 - ・地域猫活動について学ぶため
 - ・殺処分される猫をなくしたい
 - ・地域猫活動の現況を知りたいため

【考察】

半数以上を「野良猫を助けてたい」又は「地域猫活動の実施を検討(すでに実施)している」が占め、野良猫問題をなんとかして解決し、殺処分される猫の数を減らしたいという切実な思いが示された。

また、同時に野良猫に困っているという意見も少なからずあるが、その内容は地域猫活動の実施により解決する可能性が高いものも含まれていることから、地域猫活動の重要性が確認された。

Q 3 地域猫活動を知っていましたか。(複数回答可)



○「その他」の主な内容

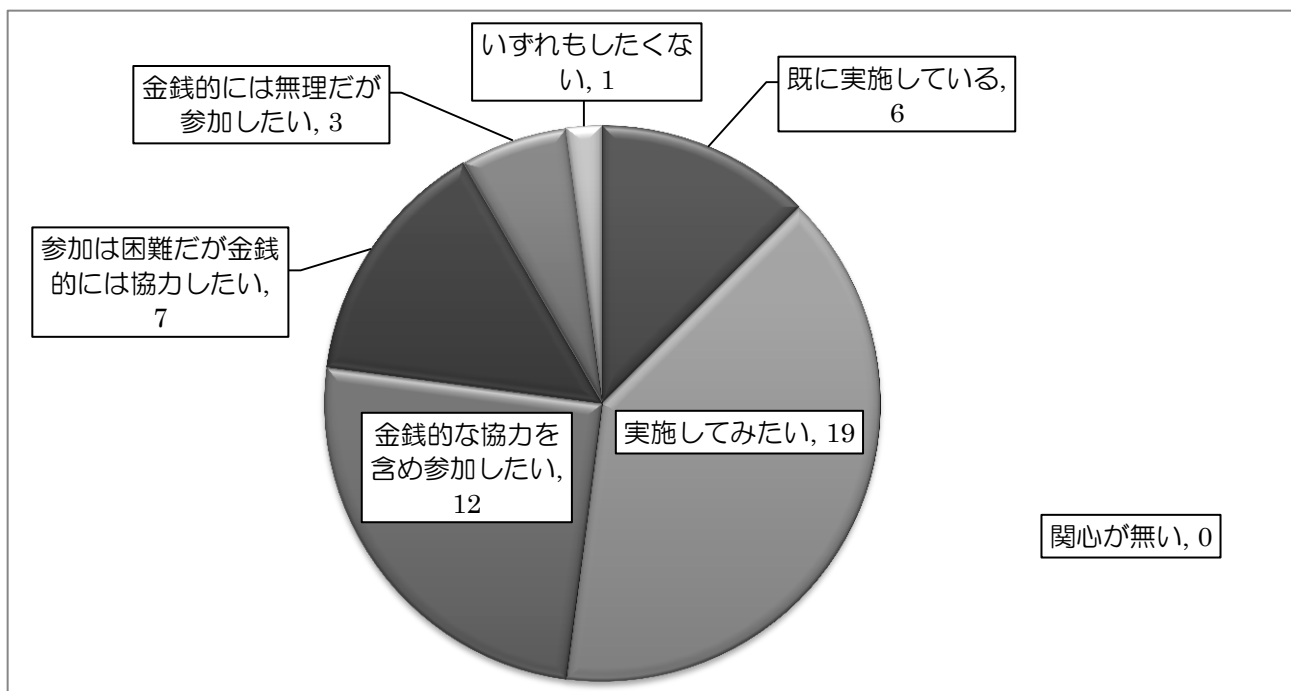
- ・言葉も内容も知っていたが、具体的な方法（取組み方）がわからない

【考察】

地域猫活動について「言葉も内容も知っていた」が大多数を占めたことから、元々地域猫活動に興味がある（またはすでに実施している）参加者が多いことがうかがえた。

一方、「言葉も内容も知らない」または「具体的な方法がわからない」等の意見もあったことから、セミナー等を通じた地域猫活動の更なる普及・啓発の必要性が確認された。

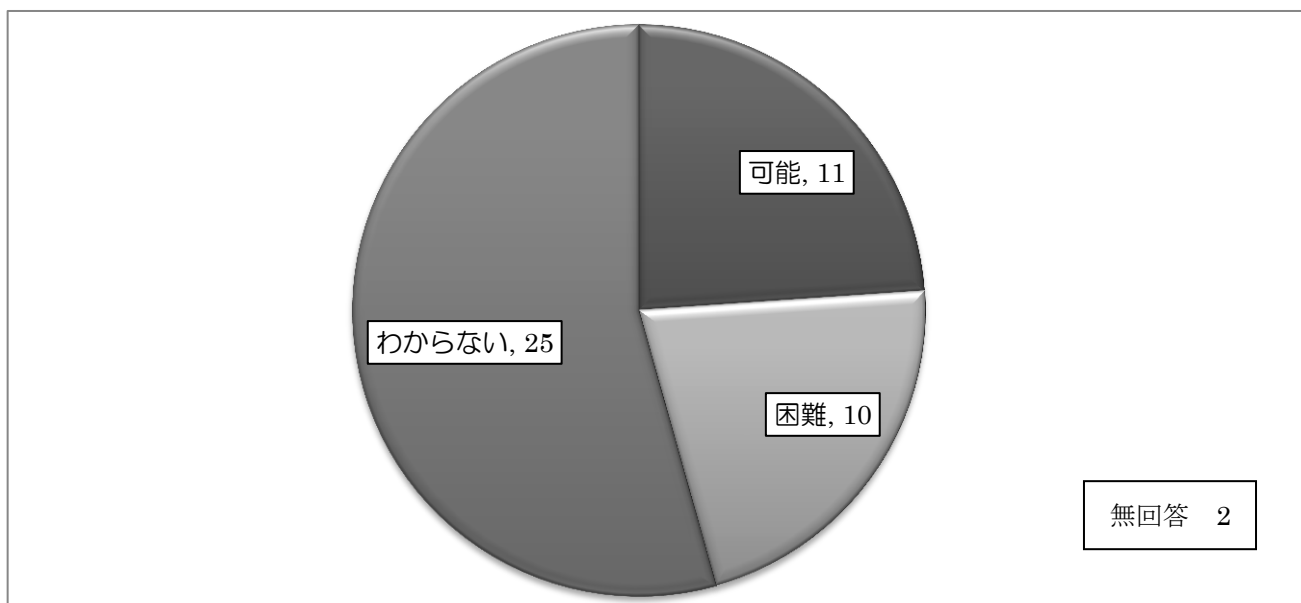
Q 4 地域猫活動を実施または参加・協力したいと思いますか。(複数回答可)
※「参加」とは給餌・清掃等の役割を担う事を指す。



【考察】

ほぼ全ての意見が、何らかの形で地域猫活動に携わりたいというものであった。
また、地域猫活動の実施にあたり、最大の障壁の一つとなる費用について、金銭的な協力が可能との意見が 19 件あった。

Q5 あなたのお住まいの地域で「地域猫活動」は可能だと思いますか。



- 「可能」な主な理由
 - ・猫の殺処分数が多いため
 - ・地域には猫好きの住民もいる（多い）ため
- 「困難」な理由
 - ・参加者がいない
 - ・野良猫（地域猫活動）に対する地域住民の無理解、無関心
 - ・猫嫌いの住民がいるため
 - ・そもそも行政が地域の現状や地域猫活動について知らないため
 - ・活動費、特に手術代が足りない

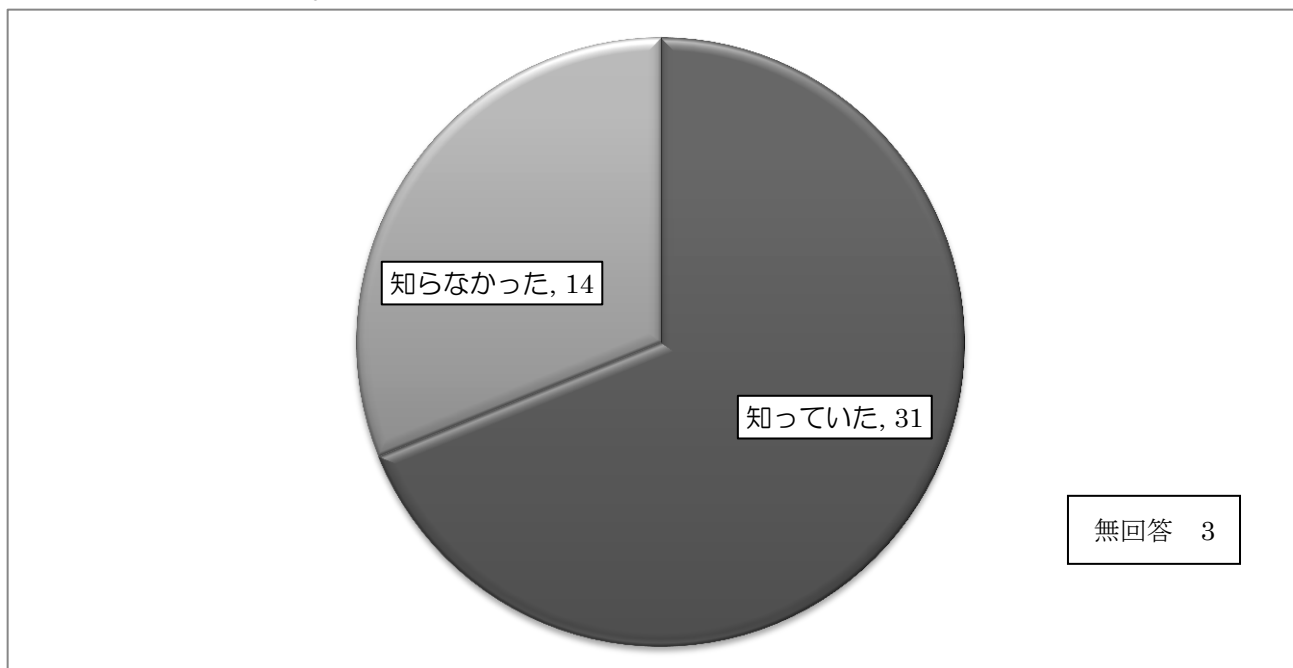
【考察】

「可能」と「困難」がほぼ同数で、半数以上が「わからない」であった。

「困難」な理由として、地域住民の無理解・無関心や猫をこころよく思わない住民等による地域の合意の困難さ（参加者不足）、及び手術代等の費用などがあった。

また、「わからない」が多かった理由として、地域の実情が不明な状況で、「可能」とも「困難」とも言えない状況がうかがえた。

Q6 (公社)愛媛県獣医師会が実施している「野良猫対策支援事業」を知っていましたか。



(公社)愛媛県獣医師会「野良猫(地域猫)対策支援事業」とは

地域猫を定着させるための活動を行うグループ等が地域猫の避妊手術(雌)を希望した際に、県獣医師会が避妊手術を行い、地域猫を定着させる活動を支援することにより、公衆衛生の向上や社会福祉の推進に貢献することを目的とする事業。

○その他意見

- ・雄も実施してほしい

【考察】

約7割の参加者が当該事業について知っており、認知度の高さがうかがえた。

Q7 その他自由意見（意見の多かった順）

- (1) 地域猫活動の周知・啓発に関するもの
 - ・そもそも活動を知らない人が多い
 - ・関心のある人しかセミナーにはこない
 - ・無関心者に対する普及・啓発が重要
 - ・殺処分されている現状をもっと周知してほしい
 - ・回覧板や地方紙の活用、人の集まる場所へのポスター掲示等普及啓発の強化
- (2) 費用に関するもの
 - ・不妊去勢手術代の軽減
 - ・ふるさと納税等の活用
 - ・補助金、助成金が少ない（ない）
 - ・野良猫手術専用の補助金の創設
- (3) 行政に関するもの
 - ・行政の枠を超えた取組みが必要
 - ・市町にもっと関心をもって地域猫活動に協力してほしい（実情を知ってほしい）
 - ・行政は動物愛護団体（ボランティア）ともっと協力すべき
 - ・南予での普及啓発について行政に協力したい
- (4) その他
 - ・身勝手な餌やりの人は地域猫活動の話は聞かないし、出来ない
 - ・無責任な餌やり対策が必然である
 - ・地域のコミュニティが希薄なため、活動が困難だと思われる
 - ・野良猫に対する地域住民の温度差が大きい
 - ・動物の遺棄・虐待が犯罪だと知らない人が多い

【考察】

最も意見の多かったのが「普及・啓発」に関するものであり、地域猫活動について未だ県民にほとんど浸透していない状況であることから、更なる周知活動の強化を望む意見が見られた。

また、地域猫活動セミナーについても、野良猫に関心のある人しか参加しないことから、無関心者に対する普及・啓発の必要性に関する意見があった。

費用に関しては、やはり多大な費用がかかる不妊去勢手術に関する意見が多かった。

行政に関しては、県だけではなく、市町についても地域猫活動について協力してもらいたいとの意見がみられた。

今後は、無関心者に対する周知、及びセミナーの効果的な開催方法等を含めた普及・啓発の強化、さらには市町に対する地域猫活動への協力を継続して求めていく必要がある。

5. 総括

愛媛県で収容・殺処分される犬猫のうち、約7割を飼い主のいない猫（野良猫）及びそれらが生んだ子猫が占めており、また市町や保健所へ寄せられる猫に関する苦情には、糞尿やゴミ荒らしなど野良猫によるものも多い状況である。

これら飼い主のいない猫問題は全国的なものであり、基本的に各自の自衛に寄らなければならない、その解決に苦慮しているところであるが、昨今、それら飼い主のいない猫を地域で管理し、不妊去勢手術を行いその数を減らしていく「地域猫活動」が、各自治体で導入され一定の実績をあげていることから、本県においてもガイドラインの策定やセミナー開催など、地域猫活動の普及啓発を図っているところである。

セミナー参加者を対象とした今回のアンケートでは、参加理由として「野良猫を助きたい」または「地域猫活動の実施を検討（または実施している）」という回答が多くを占め、地域猫活動の認知度についても、7割以上が言葉も内容も知っていたことから、野良猫問題に対し関心の高い方々の参加が多かったことがうかがえた。

しかしながら、自由意見にもあったとおり、地域猫活動の普及啓発には、野良猫問題に「無関心」な方々へ周知を行い活動の輪を広げていく事が重要であることから、より効果的な周知方法について、引き続き検討を行っていく必要がある。

また、地域猫活動への参加・協力の有無については、ほぼ全ての方が何らかの形で参加・協力する意思を持っている一方、住んでいる地域での地域猫活動の実施の可否については、「わからない」が半数以上を占めていた。

これは、住んでいる地域ですでに地域猫活動が行われていれば参加・協力するが、活動を最初からスタートさせる場合には、その具体的な方法がわからないほか、地域コミュニティの希薄化等により地域の実情が不明であるためであると推察される。

このことから、地域猫活動をスタートさせるためのアドバイスや技術的サポート、並びに住民間の橋渡しの役割としての行政や動物愛護団体等の支援が重要であることがうかがえた。

地域猫活動が軌道に乗り、適切な管理がなされていけば、その地域の野良猫は数を減らしていき、ついでには野良猫に関する苦情、及び収容・殺処分される不幸な命の削減につながることから、今回の調査を踏まえて、更なる地域猫活動の普及啓発を図ることとしている。